

1. 評価報告概要表

作成日 平成 19年 9月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	1070400997
法人名	有限会社ツインバード
事業所名	グループホーム「花風」
所在地	群馬県伊勢崎市境上湊名968-1 (電 話) 0270-70-2301
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年9月11日

【情報提供票より】(19 年 8月 24日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 8 月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	6.7 人

(2)建物概要

建物構造	鉄鋼系組立造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	光熱費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(8月 24日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 70 歳	最高 100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	斉藤内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

様々な世代から構成された職員が、それぞれの良さを活かしたケアを行っている。また管理者、職員と主治医が密接に連携し、利用者の健康状況に即時に対応できるような支援を行っており、チームで利用者を援助していく姿勢が見られる。また、利用者一人ひとりの能力と入居に至るまでの背景を考慮し、それぞれに応じた役割を担ってもらうことで、日々の生活に張り合いを持ってもらうよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘を受けた地域への働きかけについては、その後、結果は出ていないものの、積極的に取り組む姿勢が見られる。また玄関まわりに季節の花を植えたり、ベンチを設置するなど空間づくりにも取り組んだ。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を行っており、職員は外部評価・自己評価を行う意味を理解しているものの、具体的な改善策にまでは結びついていない事項もある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度開催しているが、ホームの近況報告が中心で参加者も定着していない。また参加者からの積極的な意見・要望・質問は少なく、サービスの向上に活かすまでには至っていない。ホームの具体的な課題を参加者で検討し、意見交換できるよう参加者への協力依頼と会議の運営が期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者が窓口となり、家族の訪問時・家族会開催時等、常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。家族からの意見や苦情等については、会議内で取り上げ、具体的なケアや運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩など外出の機会を作っているものの、立地的な問題もあり地域住民との交流が図られていない。管理者は地域との連携を自覚して、地区の長との話し合いの機会を持てるよう努力している。これまで同様に地域の代表の方々への啓発活動に取り組むとともに、近隣住民にホームの運営について説明したり、ホームに立ち寄る機会を設けるなどの努力をしてほしい。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの尊厳を大切にする」「自由な活動を支援する」という独自の理念を有している。しかし、地域密着型サービスとしての意味付けがなされていない。	☐	これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの意義をすべての職員で確認し、ホームが果たすべき役割を反映した理念づくりを進めていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、玄関ホールなどの施設内の目につきやすい場所に掲示している。	☐	理念は、掲示のみならずミーティング時にすべての職員が施設の理念について意識できるような働きかけをしていたきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長や民生委員の方に対し話をする機会をもち啓発に努めているが、具体的な交流は図れていない。	☐	これまで同様に地域の代表の方々への啓発活動に取り組むとともに、近隣住民にホームの運営について説明したり、ホームに立ち寄る機会を設けるなどの努力をしていたきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	すべての職員の意見を反映し自己評価を行っている。また、前回の評価で見いだされた課題について、地域への啓発活動に取り組むなど積極的に改善に取り組んでいる。	☐	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の2ヶ月に1回開催している。会議の内容は近況報告が中心であり、会議での内容をホームの質の向上へ結びつけるまでには至っていない。	☐	会議では、ホームの具体的な課題を参加者で検討し意見交換できるよう、参加者への協力依頼と会議の運営をすすめるようにしていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、分からないことなどがあった場合に問い合わせを行ったり、直接訪問している。	○	折に触れ、ホームの現状やサービスへの取り組みを報告するなど、日常的な報告を行い連携を図っていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、その利用者の日常の様子や健康状態を伝え、併せて月に1回「花風だより」にてホームの行事や活動報告を行っている。金銭管理については一人ひとりの収支を個別に家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会開催時などに、常に問いかけをし何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等は会議内で話し合い、運営に反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は必要最低限に抑えており、異動、解離がやむを得ない場合は、引継ぎと利用者家族への説明を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、法人内外の研修に関する情報を随時すべての職員に提供し、希望があれば可能な限り参加できるよう配慮している。しかし研修報告の内容が職員に共有されていない。	○	研修報告書を作成する、また報告の時間を作るなどして、研修に参加しなかった者も知識の共有化を図れるような体制作りをしていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は職員が他のグループホームにて研修に参加する等の取り組みを行っていたが、現在は行っていない。	○	群馬県認知症高齢者グループホーム連絡協議会等への参加や情報交換を通じて、他の事業所との交流をケアに活かしていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得の上でサービス開始となるよう利用者や家族が事業所を見学することからは始めている。すぐに入所となった場合には、家族やそれまでかかわっていた関係者からの情報収集と、家族や関係者の来所など安心感をもってもらうよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活暦や特技・趣味などを把握し、利用者は人生の先輩であるとの考え方を共有したうえで、利用者と職員がともに過ごし支えあう関係を築いている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から個人の思いや希望の把握に努め、言葉や表情からその真意を測ったり、確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度、職員全員参加の会議の中で情報を出し合い、介護計画を作成し、すべての職員がすべての利用者の情報を把握するようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しをしている。利用者の日常的な変化は、介護計画の効果などの評価とあわせて検討を行い、介護計画が現状に即したものとなるよう見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への受診や買い物への支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用者の入居前からのかかりつけ医の受診など個々に応じた支援を行い、複数の医療機関と関係構築がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合、終末期の在り方について具体的な取り決めはない。	○	入居者が重度化した場合や終末期の在り方について家族・医師・看護師を交えて話し合い、方針を定めていくことをすすめていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事時、排泄誘導時等、他の利用者にはできるだけわからぬように配慮した言葉かけや対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその1日のプログラムは決められているものの、個々の利用者の体調や気持ちを尊重し、朝起きたくない人にはそのままや休んでいただいたり、入浴日も希望にあわせたりして、それぞれのペースで生活できるように支援し見守りを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの日常動作の状況に応じて、調理の補助や下膳、台拭きなどを行えるよう支援している。職員と利用者が同じテーブルを囲んで、共に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、入浴時間は一応決められているが、本人の希望により入浴日、時間の変更が可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶入れ、清掃、食事の後片付け、洗濯などそれぞれの利用者の能力に応じた役割をお願いし、日常生活の中に張り合いを持てるよう支援している。	○	利用者の特技や趣味などを個々に働きかけ、楽しく過ごしていただけるような支援をしていただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事の他に、利用者の体調や天気に応じて、日常的に散歩や買い物などの支援がなされている。天気のよい日は言葉かけを行い、積極的に戸外にでるよう散歩など外出の機会の提供を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間時、また勤務の職員が少ない時に極力短時間の間のみ鍵をかけることがある。しかし基本的に鍵はかけないようにしており、玄関を人が通過した際には外出の確認としてチャイムが鳴るようにしてある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、避難および救出等の訓練を行っている。消防署の指導のもと災害時の訓練マニュアルを作成し、それに沿って行動できるようにしている。	○	近隣住民、地域への働きかけを今後も継続して行い、災害時にも協力支援が得られるような関係作りをしていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事残量は、毎日のチェック表に記載し職員が状況を把握し共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間には、折り紙で作られた季節に咲いている花が飾られ、季節を感じられる温かみがある空間作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への私物の持込などに制限はなく、使い慣れた物に囲まれた生活が可能である。しかし、実際に持込等を行っている利用者はあまり見当たらない。	○	家族等と相談しながら、利用者の使い慣れたものや利用者の希望するものを持ち込むなど、利用者の落ち着ける空間作りと家族への働きかけをしていただきたい。